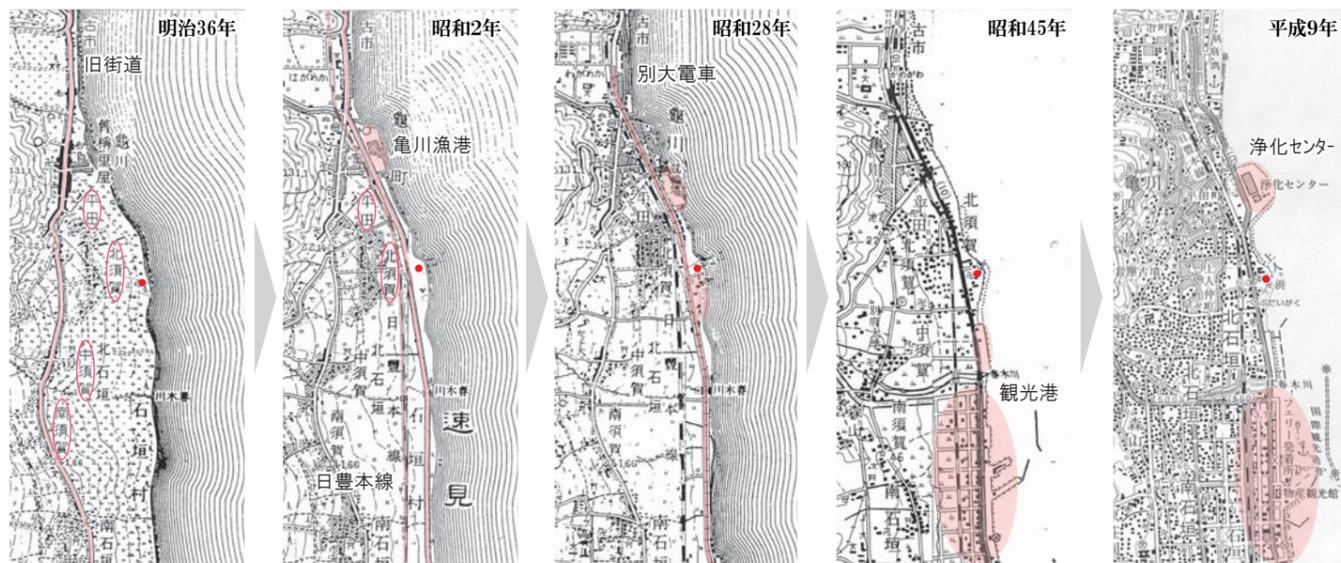


上人ヶ浜地区の歴史

上人ヶ浜は、別府港海岸の中でも数少ない自然の磯浜が今もなお残っている海岸です。このような上人ヶ浜をこれからも大切にしていくために、上人ヶ浜の歴史についてご紹介します。

(亀川～石垣にかけての変遷)

旧版地形図の変遷を見ると、上人ヶ浜周辺の開発は、明治末の日豊本線と別大国道の整備に始まるのがわかります。この後、周辺の海浜の埋め立てや背後の市街化が進み、昭和40年代以降現在までの開発は、面的な広がりとして観光港を中心とした海岸部の改造をもたらしています。その中で、上人ヶ浜周辺は、豊かな自然環境が残された貴重な地域であることがわかります。



出典：明治36年・昭和2年・昭和28年・昭和45年／「日本図誌大系 九州I」(1988年)、平成9年／国土地理院地形図

(明治36年) 扇状地の地形、旧街道沿いに、平田・北須賀・中須賀・南須賀の集落がある。旧街道から海岸までは棚田が続き、上人ヶ浜の位置には針葉樹が生育していた。(昭和2年) 明治42年10月に豊洲鉄道の建設が始まったのを機に、別府一大分間道路の拡幅と護岸工事が行われ、現在の別大国道の基礎が築かれた。明治44年に豊洲鉄道は開業、大正12年に宮崎県吉松まで開業し、日豊本線と改称された。平田から北須賀の集落にかけては、街路が整備され、集落の拡大が見られる。国道の沖合が埋め立てられ、亀川漁港が出来ている。(昭和28年) 昭和17年に別大電車が亀川駅前まで延伸された。上人ヶ浜の南側に建物が建つ。亀川漁港から南側に競輪場の埋め立てがみられる。(昭和45年) 春木川以南で区画整理が進み宅地化が始まる。観光港および春木川から上人ヶ浜にかけて埋め立てが行われる。(平成9年) 昭和47年に別大電車の運行は廃止された。この間、亀川漁港の沖合展開、浄化センターの整備、別大国道のバイパス化、観光港の整備などが進んだ。同時に、背後地の市街化も進展し、亀川から北須賀にかけては密集した住宅地となった。上人ヶ浜は、突き出した形状をそのまま保全している。

(上人ヶ浜周辺の変遷)

別府市史によると、上人ヶ浜周辺の利用については「六勝園」として記述されています。現在も、バス停やビルの名前として残っており、別府市美術館が所蔵する「六勝園記」の書には、海浜ホテルを寄贈した菅沼氏が、昭和8年に六勝園を開園したとあります。六勝とは、上人ヶ浜公園あたりの優れた資質のことであり、「白砂」「青松」「温泉」「清水」「旧跡(上人ヶ陸地)」「青山(背後の山並み)」のこと、と紹介しています。

住宅地図の変遷をみると、国道や鉄道の開通によって沿道の開発が進められた時点では、上人ヶ浜周辺は民家や会社が建ち並ぶ普通の郊外の風景でした。時代の経過とともに、残された自然環境の良さを求めて保養所が立地し、現在のような静かで落ち着いた佇まいを見せるようになり、現在に至ります。



(写真上) 上人ヶ浜海岸 昭和10年頃の上人ヶ浜海岸は、一般に六勝園海岸と呼ばれていた。中央に見える白い建物が六勝園水族館。(写真下) 六勝園露天風呂 戦前に六勝園(現在の海浜砂湯付近)にあった開放的な露天風呂。

出典：「別府市誌第3巻」(別府市、2003年7月1日)

お知らせ

第2回ワークショップは3月17日に開催を予定しております。詳細は後日ご案内させていただきます。

※別府港海岸の整備に関する情報は下記別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧ください。
<http://www.beppu-port.go.jp/>

別府里浜づくり新聞

第23号
平成21年
1月21日

第1回別府港海岸づくりワークショップ(上人ヶ浜地区)を開催しました



別府港海岸(上人ヶ浜地区)の整備計画の策定にあたり、市民の皆様にご参加いただき「第1回別府港海岸づくりワークショップ(上人ヶ浜地区)」を、平成20年12月4日(木)午後7時より別府市北部地区公民館で開催しました。

当日は30名の市民の方々と、大分県並びに別府市の職員等の関係者にご参加頂きました。参加者の募集方法は、ホームページや新聞、自治会の連絡などで呼びかけるとともに、平成14年度のワークショップに参加された方々等へ案内状を送付し、開催のご案内を致しました。

ワークショップの内容

今回は第1回目ということで、まず最初に、海岸整備の検討において、ワークショップの位置づけ、全体の検討体制、スケジュール、ワークショップの進め方について、事務局より説明を行いました。続いて、ワークショップの座長として別府港海岸整備計画検討会の委員をお願いしておりますNPO法人別府八湯トラスト代表理事の菅健一氏を選出しました。次に、事務局より上人ヶ浜地区の整備計画について、海岸線の現状と検討経緯、そして、これまでの整備計画案とこれを踏まえて新たに作成した代替案の説明を行いました。

次に、既に2回開催している検討会での議論について、検討会の委員をお願いしております上人ヶ浜地区大学通り活性化推進協議会会長の小林健三氏よりご報告頂きました。その後、討議に移り、はじめにホテル晴海、NPO法人ウォーターセーフティマネジメント協会、亀川漁協の方々にご意見を伺い、さらに、参加者の皆様からご意見を頂きました。

ワークショップでは、別途組織している「別府港海岸整備計画検討会」とのつながりを考え、住民代表として検討会に参加頂いている菅氏と小林氏に座長と検討会の報告をお願いすることとしました。ワークショップでの皆様からのご意見は、検討会にて菅座長より報告して頂くこととしています。

菅健一座長の紹介

座長をお願いしました菅健一氏は、NPO法人別府八湯トラスト代表理事としてご活躍されています。NPO法人別府八湯トラストは、平成15年9月に非特定営利活動法人に認定されました。「別府八湯の美しい景観や自然環境、歴史的な建造物、町並みそして温泉と共に生きる暮らしの文化等、有形無形の「別府八湯の宝物」を守り育てる」という理念のもと、勉強会、シンポジウム、イベントなど様々な活動に取り組まれています。このような活動のご経験を生かし、これまでの検討会でも委員を務めて頂いています。

<第1回 別府港海岸づくりワークショップ(上人ヶ浜地区) 会次第>

1. 開会
2. 事務所長挨拶
3. 海岸整備の検討について
4. 座長の選出
5. 上人ヶ浜地区の整備計画について
6. 検討委員会の報告
7. 討議
8. 本日のまとめ
9. 閉会



事務所長挨拶の様子



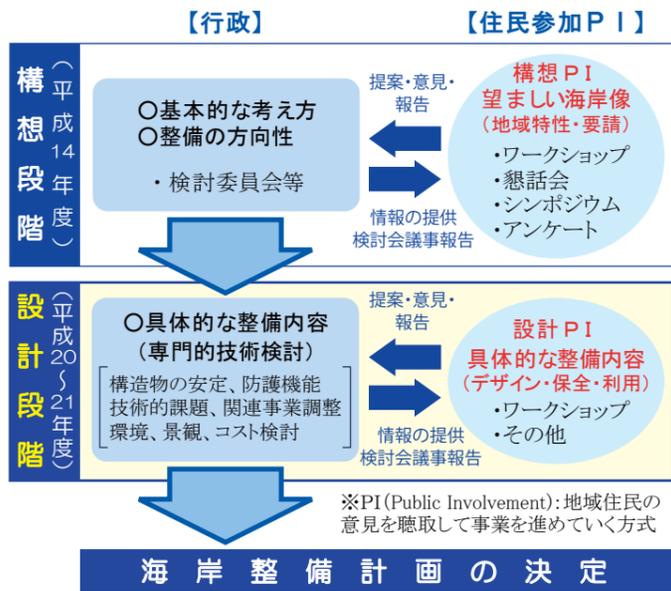
挨拶される菅健一座長

海岸整備の検討について

別府港海岸整備計画の検討は、構想段階、設計段階を経て、最終的な整備計画を決定します。この中で、検討委員会と連携して進める住民参加型P I（パブリック インボルブメント）の方法のひとつとして、ワークショップが位置づけられています。P Iとは、地域住民の方のご意見を聴取して事業を進めていく方式のことです。そして、このワークショップは、海岸整備計画について行政や専門家だけで検討するのではなく、施設整備や環境、利用等に関することを地域の皆さんと一緒に考えるための場となります。

上人ヶ浜地区では、平成14年度に構想段階のワークショップを開催しており、今回は設計段階のワークショップとして開催し、具体的な整備内容についてご意見を頂くこととなります。頂いたご意見は、検討会において報告し、出来る限り計画に反映させていきたいと考えています。

検討スケジュールとして、検討会は今年度3回、来年度3回の計6回、ワークショップは今年度2回、来年度3回の計5回の開催を予定しています。



上人ヶ浜地区の海岸整備計画策定の流れ



討議内容

菅座長の司会で、上人ヶ浜の整備について参加者の皆様からご意見を頂きました。そして最後に、ご参加くださいました検討会の委員長でいらっしゃいます九州共立大学の小島教授よりご意見を頂きました。

会場で頂いた意見と受付で配布したアンケート用紙に記入いただいた意見についてご紹介します。これらのご意見は、今後の上人ヶ浜地区の整備計画の検討に可能な限り反映させていきたいと考えております。

防災と観光の両立に関するご意見

- ・防災目的だけでお金を使う時代ではない。豊かな自然を背景に観光に資するべき。
- ・防災でやっている日本の海岸、一方、ヨーロッパなどは観光も意識している。
- ・リゾート地のような海岸をつくってほしい。
- ・観光客、市民、漁業者のための海辺になればよい。
- ・防災（護岸）+観光を考慮してほしい。管理道路を造るとしても、散策道路を兼ねる計画のようなので是非お願いしたい。
- ・別府市は観光立市である。安全は第一だが、資産である海岸線を美しく残すことも必要である。
- ・被災に関しては21年間1度もない。台風が来て白波がくるというのはあるが直接波が来たことはない。



貴重な磯の保全、親水性の確保、上人ヶ浜公園との連携に関するご意見

- ・通ってはいけない、危険区域を設けるといってではなく、子供達も遊べるような場所にしてほしい。
- ・公園の前で潜ったり、サザエを捕ったりした経験がある。唯一の磯がある。これを大事にすること。
- ・南部～上人ヶ浜は市民が磯と遊ぶことができる整備をしてほしい。自然の磯、子供たちの学習の場、集う場所を基本としてほしい。
- ・磯遊び以外でも、例えばシュノーケルなど、親水性の高い体験の場として有効なのではないか。
- ・別府港全体の中で上人ヶ浜を位置づけるべきだ。自然の磯はここだけだ。全体をにらんだ計画をつくってほしい。

- ・漁業補償はないが、別府を海から変えていこう、昔の海に戻し動植物が戻る海を作るといって事業に賛成した。海をいじめない整備をしてほしい。
- ・市民の利用の多い上人ヶ浜公園との連携を踏まえた整備をしてほしい。
- ・住民が海に親しめるように、防災と親水の両方をお願いする。今回のワークショップも市民と海との関係づくりを議論する場とすべきだ。



護岸前面の利用に関するご意見

- ・上人ヶ浜から、10号線を通って、南部エリア、中央エリア、靴屋まで散歩コースにしている。将来的には北部まであってもよいが、上人ヶ浜～南部エリアまでの遊歩道の整備が現実的だと思う。
- ・遊歩道を上人ヶ浜公園から亀川に至る散歩道の設置が望ましい。浄化センターの外側を回れるルートを考えてほしい。
- ・平成14年の検討時は、北部エリアに公園を設けて上人ヶ浜とつなぐ遊歩道をつくるという案であり反対しにくかったが、公園がないのなら何もしないでほしい。ホテル前を同じ目線で歩かれるのは困る。
- ・中央エリアを歩けるようにするには展望風呂や防犯の問題がある。
- ・中央エリアでは背後の利用状況を考慮しているようだが、南部エリアについても宿泊施設があるため考慮してほしい。護岸上を歩かれる場合があり、先日も泥棒が入ったり、防犯上困っている。
- ・海岸に近づきにくい。海岸に歩いていけるようにしてほしい。一方で、観光施設の人の意見（ホテル前の磯に人が来るのは困る）もわかる。例えば歩道の高さを低くするなど、調整できる方法はないか。



事業の対象範囲、計画案等に関する質疑応答

- ・上人ヶ浜公園の前は対象外になっているが何故か？台風で遊歩道等が被災している。→ [事務局] 背後の住民に被害を与える越波は発生していない。管理者である別府市に考え方を確認する。
- ・現在ある2案（遊歩道設置案、なし案）とは違うものも提案できるのか？護岸に触らずに防護する方法を議論できるのか？→ [事務局] 可能である。しかし、防護を考える上で護岸（特に天端高）は重要である。検討が必要であるが議論してもらってよい。



小島委員長（検討会）の感想とまとめ

- ・皆様の貴重な意見を検討委員会に反映させていくつもりである。今後も意見をください。以下、今回出た意見で重要だと思うものをいくつか整理する。
 - ①防災と親水の両立という意見は大事である。今回の整備事業はこの点が要である。
 - ②利用者、特に子供が利用しているところをまずは壊さないこと。さらに、できるならば、新たにそういった場所を設けてほしいという意見があった。
 - ③観光に役立つ整備を望む意見もあった。
 - ④一部を見ているとしばしば全体を忘れがちであるが、別府湾全体を見ること、という意見は肝に銘じて検討を進めていく。
- ・防災だけを考えても難しい。いろいろな工法があるが、それを網羅するつもりである。効果と費用を考えて、技術的に検討したい。それでもすべての意見を満足することはできないだろうが、可能な限り意見を反映させていきたいと思っている。

※ここに記載したご意見は、参加者の皆様から頂いたご意見をまとめたものです。できる限り全ての方のご意見を示したつもりですが、必ずしも十分に書ききれないものもあるかもしれません。ご了承ください。今後のワークショップでも、更なるご参加と活発なご意見を賜りますようお願い致します。

